

INTERVIEW

アブダビの超高压直流海底送電事業に プロジェクトファイナンス

日本企業が参画する油田・ガス田開発基地への
電力供給事業を支援

インフラ・環境ファイナンス部門 電力・新エネルギー第1部
第2ユニット

布施 晴香 係員（当時）に聞く

JBICは、2022年9月、九州電力株式会社などが出資するアラブ首長国連邦（UAE）法人のABU DHABI OFFSHORE POWER TRANSMISSION COMPANY LIMITED L.L.C.との間で、アブダビ首長国での超高压直流海底送電事業を対象として、約12億100万米ドル（JBIC分）を限度とするプロジェクトファイナンス（PF）による貸付契約を結びました。

本融資は、韓国輸出入銀行、株式会社みずほ銀行、株式会社三井住友銀行、BNPパリバ・フォルティス銀行、スタンダードチャータード銀行との協調融資（総額約32億100万米ドル）です。

高効率な送電によりアブダビの温室効果ガスの削減に貢献

今回のプロジェクトは、UAEのアブダビ首長国の国営石油会社 Abu Dhabi National Oil Company (ADNOC) が所有する油田・ガス田開発基地2か所と、アブダビ本土を結ぶ超高压直流海底送電システムを建設・所有・操業し、完工後

35年間にわたりADNOCより送電料金を受け取る事業です。この事業は中東で初の超高压直流海底送電事業であり、また、九州電力グループにとっては初の海外送電事業への参画となりました。

「送電先であるADNOCの洋上開発基地では、もともと基地で発電した電力を使用していましたが、これに代わりアブダビ本土でより効率良く発電した電力を送電することで、温室効果ガスの排出削減に貢献します。UAE政府は2021年10月に『Net Zero by 2050 Strategic Initiative』を公表し、湾岸産油国の中で初めて、2050年までの温室効果ガス排出量ネットゼロにコミットしました。本件は、こうした取り組みにも合致するものです」と、本融資を担当した布施晴香係員はプロジェクトの意義を説明します。

日本企業への支援、アブダビとの関係強化につながるプロジェクト

このプロジェクトは、2020年4月に事業権入札が公示され、入札参加を検討している九州電力からPFによる融資の相談がありました。

「九州電力からは、新しいファイナンス形態での支援希望を頂きました。このファイナンス形態は当時JBICではまだ支援実績がなかったため、プロジェクトの事業性評価や環境社会配慮の確認といった通常のデューディリジェンスに加えて、追加リスクの精査や更なる行内調整が必要でした。レンダー・スポンサー間で融資条件を交渉する会議が朝まで続くこともあったと聞いています。

こうして条件交渉が続く一方で、プロジェクトの進捗が停滞していた2021年7月に、私は担当チームに加わりました。

JBICはこれまでアブダビでは、日本企業が参画する発電造水事業などに融資を行ってきたほか、ADNOCとも直接融資や業務協力協定を通じて良好な関係を築いてきました。2021年11月には、脱炭素・エネルギー・トランジションやエネルギー効率化に焦点を当てて業務協力協定を更新していますが、その機会を捉えて、資源関連の部署やドバイ駐在員事務所と連携し、UAE政府や関係機関、ADNOCに対してハイレベル対話を



実施するなど、重層的に側面支援を行いました」と布施係員。

建設工事が進む中のファイナンス組成

2021年末、ようやくADNOCと事業会社との間で送電契約がまとまり、ファイナンス協議が本格的にスタートしました。

「2025年の完工に向けて既に開始していた建設工事の進捗に、ファイナンス組成を間に合わせる必要があり、タイトスケジュールでの契約交渉となりました。事業会社のスポンサーには九州電力、韓国電力、フランス電力といった各国の電力会社に加えて、ADNOCなどアブダビの国営企業も参画していたため、調整の難易度は高かったです。特に、交渉の最終段階では、JBICにとっての必須事項で折り合いがつかず、交渉が膠着。状況打開に向けて関係当事者間での個別協議の場を設け、粘り強く対話を重ねることで、今後の関係強化につながるような前向きな形で合意に至ることができました」と布施係員は総括します。

日本の高度な送電技術・事業の海外展開をさらに支援

日本政府は、世界的な脱炭素に向けた動きの中で、日本企業が取り組む脱炭素技術の技術開発・社会実装への支援を通じたエネルギー産業の国際競争力の強化を掲げています。また、ホスト国とのエネルギー転換・脱炭素化に向けた政策に建設的に関与しつつ、その国のエネルギー政策に適合し、高度な技術を活用して環境負荷を抑制した質の高いエネルギー・電力インフラに対する金融支援を実施する方針を掲げています。

「本件は、日本企業が出資者として事業参画するだけでなく、超高压直流送電設備として日本企業の高効率な海底ケーブルや直交変換所が採用されており、まさに日本の高度な送電技術の海外展開と、ホスト国であるUAEの脱炭素化の双方に貢献するプロジェクトになりました。UAE経済の根幹ともなる石油・ガス事業に関わる重要な注目度の高いプロジェクトを、JBICの一員としてサポートできたことは非常に貴重な経験になりました。この経験を糧に、これからも日本企業やホスト国との脱炭素化・エネルギー移行をはじめとするサステナビリティの取り組みを後押ししたいと思います」と布施係員は振り返ります。

JBICは今後も、日本の公的金融機関として、様々な金融手法を活用した案件形成やリスクテイク機能等を通じ、日本企業による脱炭素化に向けた海外インフラ事業展開を金融面から支援していきます。

